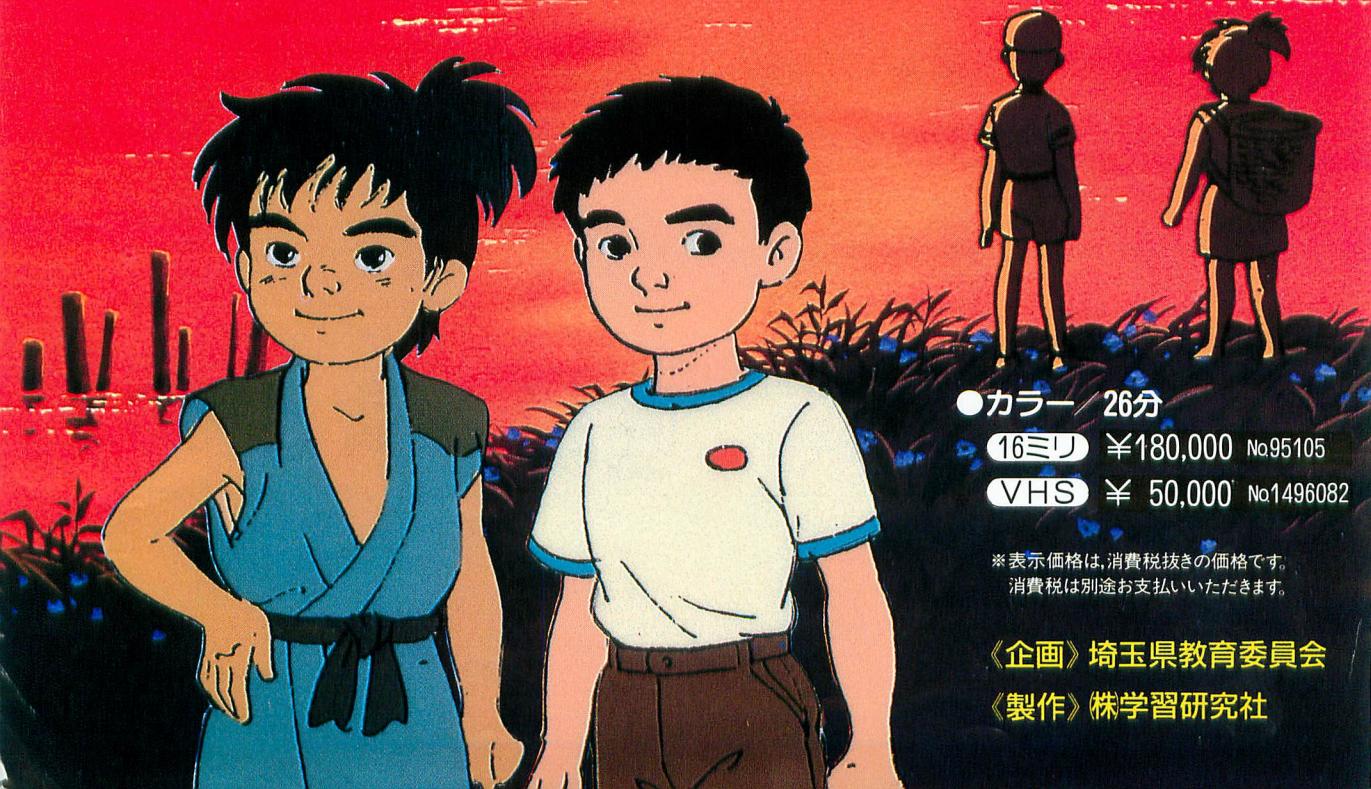


学研映画

同和教育映画・アニメーション

# ふたりのタロウ



●カラー 26分

16ミリ ￥180,000 №95105

VHS ￥ 50,000 №1496082

\*表示価格は、消費税抜きの価格です。  
消費税は別途お支払いただきます。

《企画》埼玉県教育委員会

《製作》株学習研究社

## 製作の意図

人はみんな、生まれながらに平等なはずなのに、まだまだ、いわれのない差別や偏見に苦しむ人達が少なくありません。

この作品は、現代の少年タロウが、江戸時代へタイムスリップして、身分制度の厳しさ

を実際に体験し、差別されたり、仲間はずれにされた人達の心の痛みを理解していく過程を描きながら、差別や偏見の不合理さや、人権を尊重する事の大切さを訴えようとしたものです。

## この作品の内容

- ある日のこと、小学校6年生のタロウが公園で友達とサッカーをしていると、転校生のアキラが、仲間に入れてほしいと寄ってきた。しかし、アキラは、言葉になまりがあったり、ネクラなところもあるため、みんなから仲間はずれにされている子どもである。“あんなのと遊んでいたら、こっちもおかしいと思われちゃうよ……”と、みんなからいわれ、タロウは、アキラの願いを断ってしまう。
- 公園からの帰り道、家が同じ方向にあるアキラは、いつまでもタロウのあとをついてくる。“声をかけて、いっしょに帰ってあげようか……”，“でも、みんなに知れたら困るなあ！……”どうしようか、と迷ったあげくに、やはりいっしょに帰ろうと、タロウが、思いきって振りむくと、そこには、なぜかアキラの姿はない。そして、不気味な風が吹いて、“駄目だなあ、どうして声をかけてやらなかつたんだよ”といいながら、江戸時代のタロウがあらわれて，“人から仲間はずれにされたり、差別されたりすることが、どんなにつらいことなのか、実際に体験させてやろう”という。
- こうして、江戸時代へタイムスリップした現代のタロウが、江戸時代のタロウと、土手を走っていると、近くの子どもたちが現われ、2人をいじめにかかる。ほうほうのいで川に逃がれた現代のタロウが、“……なんという奴らだ！”と憤慨していると、江戸時代のタロウは、“いいから、そのうち、そのわけもだんだんに分ってくるさ”と、なぐさめるのだった。
- やがて、江戸時代のタロウの村へと入った現代のタロウは、一家の歓迎をうけ、御馳走を腹一杯食べた後、“どうして、この村の人達は、他の村の人たちから、いじめられたりするの？”と、江戸時代にやってきて以来の疑問をぶつけてみる。それに答えて、江戸時代のタロウの姉が、“それを話すにはね。今からずっと昔、戦国時代にまでさかのぼらなければ……”と、そのわけを話しあげた。
- 戦国時代、日本では約100年もの間、全国各地の武士たちが、天下をとろうと争い合っていた。その争いから抜け出して天下を治めた豊臣秀吉は、農民をおさえつけ、年貢をきちんと取り立てるため、農民から武器をとりあげ（刀狩り）、田畠の面積を調査する（検地）とともに、身分制度を定めた。身分を固定化することによって、農民を土地に縛りつけ、年貢をどんどん取りあげようとしたのだが、この身分制度は、江戸時代に入り武士・農民・職人・商人（士農工商）というように、さらに細分化され、そのきまりも、より厳しいものとなる。
- この身分制度は、支配者の武士にとっては、とても都合のよい方法だったが、“朝は早起きして働き、木綿以外のぜいたくな着物は着るな……”などと、日常の暮しぶりまでこまごまと規制された農民にとっては、厳しすぎるきまりであり、農民たちは、しだいに不平・不満をつのらせていった。そこで、支配者が、その不平・不満をそらせるために取り入れたのが、農民・職人・商人の下に、さらに低い身分をもうけることであった。その人達の不平・不満の吐け口にさせようという巧妙な仕組みであった。
- “そんなのないよ！いじめられるほうの身になつたら、こんな人を馬鹿にした話もないもの……”と、大いに憤慨する現代のタロウに、それまでだまっていた、おじいさんが、“……実はのう、そういう身分にされたのが、わたしたちの先祖じゃった……”と語る。江戸時代のタロウの村の人達は、支配者が自分たちのために作った身分制度のために、他の村の人たちから、いわれのない差別を受けていたのだった。
- 翌日、タロウ達が遊んでいると、土手の上のほうで、争い合う声がする。見るとそこでは、江戸時代のタロウの姉と妹が、昨日の、隣り村の子ども達にいじめられている。“今度は、負けないぞ！……”と、ふたりのタロウは、勇気をふるって土手にむかう。やがて、応援にきた村の子ども達と力を合わせて、いじめっ子達をこらしめたのだった。
- こうして、江戸時代へのタイムスリップを終えたタロウが、ふと気がつくと、もとの道路に戻っており、近くにアキラが立って、心配そうに見つめている。江戸時代の差別の実態を知ったタロウは、もう先程までのタロウではなかった。“ごめんね、君はなにも悪いことをしていないのに仲間はずれにしてさ。これからは、前みたいに遊ぼうね……”と、明るく語りながら、2人仲良く家路へと急ぐのだった。

【企画】埼玉県教育委員会

■製作スタッフ

製作 黒川 嶽	原画 赤堀重雄	撮影 旭プロダクション
鈴木鉄男	松田勝己	音楽 渡辺俊幸
脚本・演出 福井康雄	森田宏幸	録音 アオイスタジオ
アニメ演出 森田浩光	高畠順三郎	観像 ソニー・PCL
作画監督 我妻 宏	美術 裕立智子	

お求めは……

24-06042 '90/2 銅

学研

情報機材事業本部

〒146 東京都大田区仲池上1-17-15  
(03)726-8558